

このたびは、「502HW」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

● 502HWをご利用の前に、「クイックスタート（準備編）」、「クイックスタート（接続・地上デジタル放送視聴編）」、「お願いとご注意（本書）」および「ユーザーガイド」をご覧になり、正しくお取り扱いください。

● ユーザーガイドは、ワイモバイルのホームページ (<http://ymobile.jp/lineup/502hw/support/torisetu/>) からご確認ください。

502HWは、4G／LTE／3Gの通信方式に対応しております。

4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合（ITU）の声明に基づきサービス名称として使用しています。

ご注意

・ 本書の内容の一部でも無断転載することは禁止されております。

・ 本書の内容は将来、予告無しに変更することがございます。

・ 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や記載漏れなどお気づきの点がございましたら、お問い合わせ先までご連絡ください。

マナーとルールを守り安全に使用しましょう

安全のために

こんな使いかたはやめましょう。

● 分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしないでください。

火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。

● 落としたとき、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。

故障などの原因となります。

● 本機を加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れたり、電磁調理器（IH調理器）の上に置いたりしないでください。

故障などの原因となります。

● 高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用・放置しないでください。

機器の変形・故障の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどなどの原因となることがあります。

● 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、特に高温環境では熱くなることがありますので、ご注意ください。長時間に触れたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。

マナーを守ろう！

安全のために使用が禁止されています。

● 航空機内では航空会社の指示に従い適切にご使用ください。本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあります。

● 病院、研究所など本機の使用が禁止されている場所では、使用しないでください。医療機器などに影響をおよぼす場合があります。

● 電車やバスなどの優先席近くでは使用しないでください。ベースメークなど生命にかかわる機器に影響をおよぼすことがあります。

● ゴルフ場など野外で雷鳴が聞こえたときは、落雷の恐れがありますので、使用しないでください。

安全上のご注意

● ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになったあとは大切に保管してください。

● ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ず守りください。

● 本機の故障、誤動作または不具合などにより、通信などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

表示の説明

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危険や損害の程度を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 ^{※1} 」を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 ^{※1} 」を負う可能性が想定される内容です。
	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷 ^{※2} 」を負う可能性が想定される場合および物的損害 ^{※3} のみの発生が想定される内容です。

※ 1 重傷とは、失明、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをいいます。

※ 2 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要しないけが、やけど、感電などをいいます。

※ 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかる拡大損害を指す。

絵表示の説明

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

	禁示 禁止（してはいけないこと）を示します。		濡れた手で扱ってはいけないことを示します。
	禁示 分解してはいけないことを示します。		指示に基づく行為の強制（必ず実行してください）を示します。
	禁示 水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示します。		

502HW、USIMカード、電池パック（HWBBK1）、microUSBケーブル（HWDBK1）充電用機器の取り扱いについて（共通）

危険

● 本機に使用する電池パック・ACアダプタ（オプション品）・microUSBケーブルは、当社が指定したものを使用してください。

指定品以外のものを使用した場合は、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や、ACアダプタ（オプション品）の発熱・発火・故障や、microUSBケーブルの発熱・発火・故障などの原因となります。

● 分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしてはいけません。

火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。また、電池パックの漏液・発熱・破裂・発火・故障などの原因となります。本機の改造は電波法違反となり、罰則の対象となります。

● 濡らさないでください。

水やベットの尿などの液体が入ったときに、濡れたまま放置したり、充電すると、発熱・感電・火災・けが・故障などの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。

● 分解禁止

火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。

● 電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や火災・感電・故障などの原因となります。

警告

● 本機・電池パック・ACアダプタ（オプション品）・microUSBケーブルを加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れたり、電磁調理器（IH調理器）の上に置いたりしないでください。

電池パックの漏液・発熱・破裂・発火や、ACアダプタ（オプション品）・microUSBケーブルの発熱・発火・故障などの原因となります。

● プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所（ガソリンスタンドなど）では、必ず事前に本機の電源をお切りください。

また、充電中の下は端子の破損の原因となります。

● 乳幼児の手の届かない場所やベットが触れない場所に保管してください。

誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。

子供が使用する場合は、保護者が取り扱い方法を教えてください。使用中においても、指示どおりに使用しているかをご注意ください。

けがなどの原因となります。

● 外部接続端子、外部テレビアンテナ差込口に液体（水道水、清涼飲料水、海水、ベットの尿など）や導電性異物（鉛筆の芯や金属片、金属製のネックレス、ヘアピンなど）が触れないようしてください。また、内部に入れないないようにしてください。

ショートによる火災・やけど・故障などの原因となります。

● ACアダプタ（オプション品）・microUSBケーブルを接続した状態で、踏みつけたりなど外部から過大な力を加えないようにしてください。

端子が破損した状態で充電すると故障や火災の原因となります。充電するときは、使用場所、取り扱いにご注意ください。

注意

● ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。

落として、けがや故障などの原因となります。

● 充電中の下は端子の破損の原因となります。

● 本機をACアダプタ（オプション品）から取り外す際は、コードを引っ張らず、ACアダプタ（オプション品）のコネクタを持って取り外してください。

コードを引っ張るとコードが傷ついたり、端子の破損による火災や感電などの原因となります。

● 落としたとき、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。

火災・やけど・感電・故障などの原因となります。

● 分解禁止

火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。

● 本機の使用により、皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用をやめて医師の診察を受けてください。

本機では材料として金属などを使用しています。お客様の体质や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じることがあります（「使用材料」参照）。

● 航空機内では航空会社の指示に従い適切にご使用ください。

本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあります。

● 車両電子機器に影響を与える場合は使用しないでください。

本機を自動車内で使用すると、車種によりまれに車両電子機器に影響を与え、安全走行を損なう恐れがあります。

● 本機の使用により、皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用をやめて医師の診察を受けてください。

本機では材料として金属などを使用しています。お客様の体质や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じることがあります（「使用材料」参照）。

● 本機に磁気カードなどを近づけないでください。

キャッシュカード・クレジットカード・レーベンカード・フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

● 分解禁止

火災・やけど・感電・故障の原因となります。

● 注意

● 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）、また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）においても同様の危険がありますので、充電・放置・使用・携帯しないでください。

機器の変形・故障の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどなどの原因となることがあります。

● 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、特に高温環境では熱くなることがありますので、ご注意ください。長時間に触れたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。

● 分解禁止

火災・やけど・感電・故障の原因となります。

● 注意

● 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）、また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）では熱くなることがありますので、ご注意ください。

長時間に触れたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。

● テレビアンテナを持って本機を持ち上げたり、振り回したり、テレビアンテナを人に向けたりしないでください。

破損やけがの原因となります。

● 分解禁止

火災・やけど・感電・故障の原因となります。

● 注意

● 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）、また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）では熱くなることがありますので、ご注意ください。

長時間に触れたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。

● テレビアンテナを持って本機を持ち上げたり、振り回したり、テレビアンテナを人に向けたりしないでください。

破損やけがの原因となります。

● 分解禁止

火災・やけど・感電・故障の原因となります。

● 注意

● 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）、また、暖かい場所や熱のこもりやすい場所（こたつや電気毛布の中、携帯カイロのそばのポケット内など）では熱くなることがありますので、ご注意ください。

長時間に触れたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。

● テレビアンテナを持って本機を持ち上げたり、振り回したり、テレビアンテナを人に向けたりしないでください。

破損やけがの原因となります。

● 分解禁止

火災・やけど・感電・故障の原因となります。

お願いとご注意

ご利用にあたって

- 4Gサービスは、専用機種以外は利用できません。
- 本機はソフトウェアアップデートに対応しております。ソフトウェアは最新の状態でご利用ください。
- 本機は電波を利用してるので、サービスエリア内であっても屋内、地下、トンネル内、自動車内などでは電波が届きにくくなり、通信が困難になります。また、通信中に電波状態の悪い場所へ移動すると、通信が急に途切れることができますので、あらかじめご了承ください。
- 本機を公共の場所でご使用になるときは、周りの方の迷惑にならないようにご注意ください。また劇場や乗り物などによっては、「ご使用できない場所があります」の表示がございます。
- 本機は電波法に定められた無線局です。したがって、電波法に基づく検査を受けていただく場合があります。あらかじめご了承ください。
- 以下の場合、登録された情報内容が変化・消失することがあります。情報内容の変化・消失については、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。情報内容の変化・消失に伴う損害を最小限にするために、重要な内容は常にメモを取るなどして保管してくださるようお願いいたします。
- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電気のノイズの影響を受けたとき
- 動作中に電源を切ったとき
- 故障したり、修理に出したとき
- 海外で無線LANをご利用される場合はその国の法律に基づいた設定変更が必要となります。設定については、ユーザーガイドをご確認ください。
- 回線の混雑状況や通信環境などにより、通信速度が低下、または通信できなくなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 爆発物を取り扱う場所、その近辺では本機を使用しないでください。爆発を誘導する恐れがあります。また、爆破装置などに影響を与える場合があります。
- 本機で利用するUSIMカードは、一部機種（これまで当社より発売された機種を含む）ではご利用になれません。
- 充電中や長時間連続でご使用された場合、本機が熱くなることがあります。取り扱いにはご注意ください。
- 長時間削除に触れたまま使用していると、低温やけどになる恐れがあります。取り扱いにはご注意ください。
- 充電中ACアダプタ（オプション品）microUSBケーブルが熱くなることがあります。

お取り扱いについて

- 雨や雪の日、および湿気の多い場所でご使用になる場合、水に濡らさないよう十分ご注意ください。
本機は防水仕様ではありません。
- 本機を極端な高温または低温、多湿の環境、直射日光のある場所、ほこりの多い場所でご使用にならないでください。
- 本機を落としてしまったときに落とすと、落下する可能性があります。
- 本機をお手入れの際は、乾いた柔らかい布で拭いてください。また、アルコール、シンナー、ベンジンなどを用いることがあせり、文字が薄くなったりすることがありますので、ご使用にならないでください。

タッチパネルについて

- ディスプレイの表面に爪や鋭利な物、硬い物などを強く押し付けないでください。傷の発生や破損の原因となります。タッチパネルは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押したり、先のとがったもの（爪・ボールペン・ビンなど）を押し付けたりしないでください。
- 以下の場合はタッチパネルに触れてても動作しないことがあります。
また、誤動作の原因となりますのでご注意ください。
- 手袋をしたままでの操作
- 爪の先での操作
- 異物を操作面に乗せたままでの操作
- 保護シートやシールなどを貼っての操作
- ディスプレイに水滴が付着または結露している状態での操作
- 濡れた指または汗で湿った指での操作
- ポケットやカバンなどに入れて持ち運ぶ際は、タッチパネルに金属などの伝導性物質が近づいた場合、タッチパネルが誤動作する場合がありますのでご注意ください。
- タッチ操作は指で行ってください。ボールペンや鉛筆など先が鋭いもので操作しないでください。正しく動作しないだけでなく、ディスプレイへの傷の発生や、破損の原因になる場合があります。
- タッチパネルにシールやシート類（市販の保護フィルムや覗き見防止シートなど）を貼らないでください。タッチパネルが正しく動作しない原因となる場合があります。
- 爪先でタッチ操作をしないでください。爪が割れたり、けがの原因となる場合があります。

無線LANについて

周波数帯域について

周波数帯(2.4GHz帯)について

- 本機の無線LANは、2.4GHz帯の2400MHzから2483.5MHzまでの周波数を使用します。
無線LAN搭載機器が使用している周波数帯は、本機の個装箱に記載されています。
- | | |
|-------|--|
| 2.4 | ：周波数2400MHz帯を使用する無線装置であることを示します。 |
| DS/OF | ：変調方式がDSSS、OFDMであることを示します。 |
| 4 | ：想定される干渉距離が40m以下であることを示します。 |
| ----- | ：2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避できますことを示しています。 |

- 利用可能なチャンネルは国により異なります。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。
- 無線LANを海外で利用する場合、ご利用の国によっては使用場所などが制限される場合があります。その場合は、その国での使用可能周波数、法規制などの条件をご確認のうえ、ご利用ください。

周波数帯(5GHz帯)について

- 本機の無線LANは、5GHzの周波数帯を使用します。電波法により5.2GHz帯および5.3GHz帯の屋外利用は禁止されています。
本機が使用するチャンネルは以下の通りです。
- W52（5.2GHz帯／36、40、44、48ch）
 - W53（5.3GHz帯／52、56、60、64ch）
 - W56（5.6GHz帯／100、104、108、112、116、120、124、128、132、136、140ch）

無線LANについてのお願い

- 電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
・磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります。特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- 本機の無線LANが使用する2.4GHz帯では、電子レンジなどの家庭用電化製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいたうえで、混信回避のための処置（例えば、パーティションの設置など）を行なうか、使用場所を変えてください。
- 無線LANは、LANケーブルの代わりに、電波を利用してパソコンなどの無線LAN端末と無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行なうため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能となるという利点があります。
その反面、電波が届く範囲内であれば、障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティー上の問題が発生する設定を行っていない場合は、通信内容を盗み見られたり不正に侵入されたりするなどのセキュリティー上の問題が発生する可能性があります。本機は、お買い上げ時の状態でセキュリティ機能が働くように設定されています。ただし、安全性を考慮して、お買い上げ時のセキュリティー設定を変更してお使いになることをおすすめします。セキュリティ機能の設定方法については、セキュリティーガイドおよびお使いの無線LAN端末の取扱説明書を参照してください。
・無線LANの仕様上、特殊な方法によってセキュリティー設定が破られることもありますので、ご理解いただいたうえでお使いください。
・セキュリティー設定などについて、お客様で対処できない場合には、お問い合わせ先までご相談ください。
・無線LAN機能をご利用の際に、上記のようなセキュリティーに関して発生するいかなる問題についても、当社は保証いたしかねますのでご了承ください。

知的財産権について

- SOFTBANKおよびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンクグループ株式会社の登録商標または商標です。
- Pocket WiFiは、SoftBank株式会社の登録商標です。
- HUAWEIは、中国HUAWEI TECHNOLOGIES CO., LTD.の商標または登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Internet Explorer、Windows Vista®は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。WindowsはMicrosoft Windows operating systemの略称として表記しています。
- TM and © 2015 Apple Inc. All rights reserved.
- Apple、Appleのロゴ、iPad、iPhone、iPod、iPod touch、Mac、Macintosh、Safariは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iPhoneの商標は、アイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。
- 「PlayStation」、「プレイステーション」、「PS3」および「PSP」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
- 「PS4」は同社の商標です。「PlayStation 4」、「PlayStation Vita」、「PlayStation 3」およびPSP「プレイステーション ポータブル」は同社の商品です。
- Wi-Fi、Wii U、ニンテンドー3DS LLおよびニンテンドー3DSは、任天堂の商標または登録商標です。
- Wi-Fi®、WPATM、WPA2TM、Wi-Fi Protected Setup™ などのロゴは、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。
- Google、Android、Google Chromeは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Firefoxは、米国Mozilla Foundationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。
- OperaはOpera Software ASAの商標または登録商標です。Operaに関する詳細については、<http://www.opera.com/ja/>をご覧ください。
- その他、本書に記載されている会社名および商品・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

PINコード設定

PIN(Personal Identification Number)は、不正ユーザーがUSIMカードを利用することを防ぐために使われるコードです。お買い上げ時のUSIMカードは、PINコード認証なし、PINコードは「9999」に設定されています。

PINコードの設定／変更方法については、ユーザーガイドを参照してください。

502HWの比吸収率(SAR)について

この製品【502HW】は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および国際ガイドラインに適合しています。この製品は、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準^{※1}ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

この技術基準および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR : Specific Absorption Rate)で定めており、この通信端末に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この製品を次に記述する所定の使用^{※3}で使用した場合のSARの最大値は0.977W/kg^{※2}です。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることがあります。いずれも許容値を満足しています。

この製品を人体の近くでご使用になる場合^{※3}

この製品を人体の近くでご使用になる場合、身体から1.5センチ以上離してご使用ください。このことにより、この製品が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合します。

世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません」と表明しています。

※1 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）に規定されています。

※2 この値は同時送信の値です。

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/index.htm>

一般社団法人電波産業会のホームページ

<http://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html>

電波ばく露の影響に関する情報として、**欧州における基準および米国連邦通信委員会(FCC)**の基準を掲載しています。詳細は「**欧州における電波ばく露の影響に関する情報**」「**米国連邦通信委員会(FCC)の電波ばく露の影響に関する情報**」をご参照ください。

欧州における電波ばく露の影響に関する情報

この製品【502HW】は無線送受信機器です。本品は国際指針の推奨する電波の許容値を超えないことを確認しています。この指針は、独立した科学機関である国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が策定したものであり、その許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。この製品から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)という単位を用いて測定します。携帯機器におけるSARの許容値は2.0W/kgで、本書に記述する所定の方法(※3)で使用したSARの最高値は0.49W/kgです。

人体の近くでご使用になる場合:

この製品【502HW】では、一般的な携帯電話の装着法として身体から1.0センチに距離を保ち携帯電話の背面を身体に向けた位置で測定試験を実施しています。FCCの電波ばく露要件を満たすためには、身体から1.0センチの距離に携帯電話を固定できる装身具を使用し、ベルトクリップやホルスターなどには金属部品の含まれていないものを選んでください。比吸収率(SAR)に関するさらに詳しい情報をお知りになりたい場合は下記のホームページを参照してください。

FCC Radio Frequency Safety (英文のみ)

<http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/>

世界保健機関は、携帯機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑えたい場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の利用を推奨しています。さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

世界保健機関 (英文のみ)

<http://www.who.int/emf>

Specific Absorption Rate (SAR) Information for this Product (for Japan)

This product [502HW] meets Japanese technical regulations* and international guidelines for exposure to radio waves. The Japanese technical regulations for exposure to radio frequency energy established permitted levels of radio frequency energy, based on standards developed by independent scientific organizations through periodic and thorough evaluation of scientific studies.

The regulations employ a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit is 2 watts/kilogram (W/kg) averaged over ten grams of tissue.

The limit includes a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The value of the limit is equal to the value given in international guidelines recommended by ICNIRP*, which is in collaboration with the World Health Organization (WHO).

The highest SAR value for this product is 0.977 W/kg*** when used close to the body in the below manner****.

While there may be differences between the SAR levels of various products and at various positions, all products meet the Japanese technical regulations.

Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR of the product during operation can be well below the maximum value.

Use close to the body****

To use this product close to the body, maintain a separation of 1.5 cm with no metal (parts) between it and the body. This will ensure this product meets the Japanese technical regulations for exposure and international guidelines for radio wave protection.

* The technical regulations are provided in Article 14-2 of the Ministry Ordinance Regulating Radio Equipment.

** International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection

*** The value is under simultaneous transmission use conditions.

The World Health Organization has announced that "A large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

For more information about SAR, see the following websites:

- Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)

<http://www.tele.soumu.go.jp/sys/ele/body/index.htm>

- Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)

<http://www.arib-emf.org/01denpa/denpa02-02.html> (Japanese)

This product [502HW] is confirmed to comply with guidelines relating to effects of radio wave exposure as set forth by the Council of Europe (CE) and the Federal Communications Commission (FCC). Refer to the following.

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health. The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit set by FCC is 2.0 W/kg. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body as described in this User Guide****. In this case, the highest tested SAR value is 0.49 W/kg.

* The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organization through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. The tests